

# 楊貴妃愛用の香料

# シベトン

# 効率的に人工合成

楊貴妃やクレオパトラも愛用したといわれる天然香料の「シベトン(靈猫香)」を効率的に人工合成すること、関西学院大学の田辺陽教授のグループが成功した。

## 関西学院大 田辺教授ら 新手法開発

シベトンは、ジャコウシカから採取するムスクと同じ、動物性香料。香水にほんのわずか加えると香りをまろやかに長持ちさせるため、高級品に用いられている。

シベトンは、炭素が17個つながって環を巻いた特殊な構造をしているた

め、収率良く人工合成する方法がなかった。このためシベトンを得るには、アフリカで野生のジャコウネコを捕まえ、おりに生かしたまま、生殖器の近くにある香腺からへらでかき取って採取している。値段も一キ数十万円ほどと高価なものだ。

田辺教授らは「チタン触媒を使って、原料となる安価なオレイン酸からシベトンを合成。原料の約50%と高収率でシベトンが得られた。田辺教授は「将来的には工業生産が可能な高収率で、値段も数分の一に下げられる。野生動物保護にも役立つ」と話している。

## 日本経済新聞

2000年(平成12年)10月9日(月曜日)

# じゃ香、効率よく合成

## コスト、天然の1/10程度

関西学院大など

高級香水に使われるじゃ香の主成分である「シベトン」を効率良く人工合成することに、関西学院大学とジャパンエナジーの共同チームが成功した。特殊な化学反応を利用する。天然の高級香水に使われるじゃ香の主成分である「シベトン」を効率良く人工合成することに、関西学院大学とジャパンエナジーの共同チームが成功した。特殊な化学反応を利用する。天然の

もの比べ十分の程度の素原子十七個がリング状に価格で供給できる。まだ実験段階だが、将来は量産も見込めるといふ。

シベトンは古くはクレオパトラや楊貴妃も好んだと伝えられる天然の香料。炭素が十七個つながって環を巻いた特殊な構造をしている。

アフリカに生息するジャコウネコを捕獲し、生殖器の近くにある香のうから採取しており、一キ当たり

じゃ香のもつ一つの主要な成分である「ムスク」はすでに工業生産されている。じゃ香をわずかに加えると香りがまろやかに長持ちするため、高級な香料に添加されている。

# クレオパトラの香り、人工合成

楊貴妃やクレオパトラも愛用したとされる高級香水の原料シベトンの効率的な人工合成に、関西学院大(兵庫県西宮市)の田辺陽教授(有機合成化学)らの研究グループが成功し、二十八日、京都市で開かれる「有機合成シンポジウム」で発表する。シベトンはアフリカなどに生息するジャコウネコからしか採れない貴重な香料で、「野生動物保護にもつながら」として注目を集めていた。

## 関学大グループが成功

シベトンは炭素が十七個つながって環を巻いた特殊な構造をして、高純度のもので低コストで人工合成するには、反応速度を上げることが課題だった。関学大とジャパンエナジー医薬バイオ研究所(埼玉県)の研究グループは、原料のオレイン酸を酸化させ、チタンを触媒として

て反応させれば化学合成が速く進むことに着目。炭素化合物を数十時間という早さで得るのに成功した。

ジャコウネコはアフリカの草原地帯などで生息。エチオピアなどでは飼育してシベトンを採取しているが、密猟もあって絶滅が心配される。研究グループは「世界的な野生動物保護の動きの中で、意義深い研究。動物から採取してきた工業原料などにも応用してほしい」と評価する。

田辺教授は「低コストで、天然のものに劣らない香料が生産できる」と話す。

「一年で採取できるのは一匹三百ほどで、一キ数十万円の「高根の花」だ」といふ。

原料採取で「ジャコウネコ安心?」

絶滅が心配